

看護の臨床における現象を読み解く

～明日からの看護に活かす医療人類学～

がん看護事例検討会（theoretical case study）

講師：波平恵美子先生（お茶の水女子大学 名誉教授）

◎ 講演A：医療人類学からみた身体観

日時：2017年8月26日（土）10:30-12:00

対象：がん看護および認知症看護に関心のある
看護実務経験5年目以上の看護職

◎ 講演B：認知症を伴うがん患者の事例検討会

～医療人類学の視点を活かして～

日時：2017年8月26日（土）13:00-15:00

対象：専門看護師、修了生、
CNSコース大学院生、教員（先着30名）

会場：兵庫県立大学明石看護キャンパス
住所：兵庫県明石市北王子町13番71号
TEL：078-925-9434
主催：兵庫県立大学大学院看護学研究科
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
（がんプロフェッショナル）」養成プラン
（責任者：内布 敦子）



* 参加費無料

事前申し込みとなりますので、<http://apnhyogo.net/seminar/>へアクセス
のうえ、必要事項（氏名、ご所属、ご連絡先、希望する講演、領域等）を、
[2017年8月4日（金）](http://apnhyogo.net/seminar/)までにご登録下さい。

連絡先：兵庫県立大学看護学部内 がんサポート事務
兵庫県明石市北王子町13番71号
TEL/FAX：078-925-9434
E-mail：gan-support@cnas.u-hyogo.ac.jp



兵庫県立大学 大学院 看護学研究科

College of Nursing Art and Science, University of Hyogo

◎講師紹介：波平恵美子先生

九州大学教育学部卒業、テキサス大学にて博士号取得。

九州大学教育学部、佐賀大学教養部、九州芸術工科大学芸術工学部を経て、1998年 お茶の水女子大学文教育学部教授、2006年より同大学名誉教授。

専門は文化人類学、特に医療人類学、宗教人類学、ジェンダー論。

日本民族学会（現 日本文化人類学会）第19期会長。日本文化論における「ハレ・ケ・ケガレ」という三項対置の概念を示された。

著書：『病気と治療の文化人類学』（海鳴社、1984年）、『医療人類学入門』（朝日新聞社、1994年）、『いのちの文化人類学』（新潮社、1996年）、『からだの文化人類学』（大修館書店、2005年）、『文化人類学 第3版』（医学書院、2011年）、

他多数。

◎講演内容：

医療者は、医療にまつわる問題を解決するとき、その糸口を見つけるために患者さんの身体の捉え方、生きるということの意味、病い・死・身体障害・老化などに対する受け止め方を問いなおすことが必要となります。これらは、決して画一的なものではなく、患者さんの文化的背景によって異なります。医療人類学の視点をとおして、相対化し、画一化してしまう傾向を見直し、患者さんの本来の姿を理解する視点を学びます。

今回は、人間の健康・病気・治療を対象とした“医療人類学からみた身体観”について概説し、現代医学や看護の現象を捉えながら事例を通して理解を深めます。事例は、認知症を伴うがん患者を想定し、患者理解を深めることが看護実践をどのように変えていく可能性があるのか、検討する機会にできればと思っています。